

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 上依知小学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 武 枝美子

学校教育目標

学校経営の方針

自分で考えて、判断し、行動する児童の育成

学校教育目標の具現化のため、全教職員による協力指導体制を確立し、児童をチームで育てる。

- ・予測困難な時代を生き抜く、「自分で考えて、判断し、行動する児童」の育成
- ・調和のとれた教育課程の編成
- ・主体的に学ぶ力の育成、確かな学力の定着に向けた授業改善
- ・児童の安心・安全確保に向けた環境整備の充実
- ・人権の尊重と、自分のよさや可能性を伸ばす支援・指導の充実
- ・保護者・地域と協働し、地域とともにある学校づくりの推進
- ・学年だより、学校だより、ホームページ等による積極的な情報発信
- ・働き方改革

今年度の重点目標

- わかる授業づくりに取り組み、「生きる力」の育成に必要な資質・能力を育む
- 地域と共にある学校づくりを推進する
- かけがえのない自分を大切に、健康な心と体をつくる
- 地域の自然や人を教育活動に生かす
- 自他を認め大切に、個々の成長を促す学級経営や学校行事を行う
- 持続可能な社会の創り手を育てる

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
分かりやすい授業や個に応じた指導に努め、基礎学力の定着を図る。	1	児童の基礎基本の力の定着を図るため、レディネステストを行い児童の実態を把握する。そして「身に付けさせたい力」を明確にして、指導を工夫する。また家庭学習の充実に努める。	レディネステストを行ったことで、児童の強みや課題が明確になった。そのうえで児童に「身に付けさせたい力」を考え、それぞれの時間の目当てを明確にして授業を行った。児童は毎時間目当てを達成できたか振り返ることで自分の成長に気付き、できる喜びを味わうことにつながったと考える。また、家庭学習についても保護者の協力をいただき、習慣化してきている。	児童の実態に合わせ、分かりやすい授業や個に応じた支援を工夫する取組を進めることができたので、次年度も取組を進めていきたい。家庭学習の取組も定着してきたので継続したい。
全員参加の授業、ICTの活用等を通して授業改善を図る。	1・2	ICTを活用した教育の充実に取り組み、授業改善を図る。ICTを用いて、友だちと考えを交流し、共に高まっていけるようにする。また、教職員で互いの授業を見る機会を多く持つ。	教師が児童の実態より単元計画を考え、それぞれの時間の目当てを明確に持って指導することができた。またICTを活用することで、児童が自分の考えをまとめたり、友達の考えと比べたりして、考えを広げたり深めたりすることができた。さらに、教職員が互いの授業を見る機会を多く持ったことにより、教職員がそれぞれの指導力を高めることができた。	児童が主体的に学べる授業が展開できるように、今後も職員の授業力向上の取組を進めていく。また個別最適な学びについて理解を深め、授業改善に取り組む。
多くの職員で一人一人の児童に関わり、学習や生活に必要な支援・指導を行う。	1・2	全職員で、児童の実態把握に努める。課題や問題がある場合はチームで情報共有し、機を逃さず適切な支援・指導ができるようにする。必要に応じて関係機関との連携を図る。	児童の記録を一週間ごとにエクセルシートに記入することで、きめ細かに児童の実態を把握し、全職員で情報を共有できた。さらに週1回児童指導・支援の関係者で情報共有する時間を持った。その結果、機を逃さずチームで、その時々に応じた最善の支援・指導をすることができた。保護者への相談体制の周知も進んだ。児童が相談しやすい雰囲気づくりが課題である。	今年度の取組を継続していく。常勤でない職員が児童の情報を共有できるように配慮する。また、児童が困ったときに職員に相談しやすい雰囲気や環境を工夫していきたい。
人との好ましい関わり方の習得を目指す。	2・3	毎日、職員が校門や昇降口で児童に挨拶をする。委員会活動を中心に、あいさつ運動に取り組む。周りの人との好ましい関わり方を習得できるように、毎月テーマを設け、ソーシャルスキルポスターを活用した取組を行う。	毎日職員から声をかけたり、6年生や委員会の児童が進んで挨拶したりしているので、登校時や下校時に挨拶のできる児童が増えている。また毎月テーマを設けてのソーシャルスキルトレーニングの取組も進んだ。楽しい掲示物を学校中に掲示し、ねらいや指導方法を職員が理解して指導できるようになっている。	職員や高学年、委員会の挨拶の取組を継続していく。ソーシャルスキルトレーニングについても、効果が上がるように、職員がしっかりと研鑽を積んだうえで継続していきたい。

自他の健康に気を付けて生活する態度の育成を図る。	2・3	手洗いや換気など感染症予防、熱中症やほかの病気の予防等の保健指導、バランスの良い食事を心がけるなど給食指導も年間を通して計画的に行う。	感染症予防の取組を経験したことで、児童の健康への関心は高い。熱中症やほかの疾病についても、保健指導をしたり保健便りで保護者に呼びかけたりできた。給食についても、安全に食事ができることを指導すると共に、食育の取組を行った。今年度、全校での縄跳び大会の取組を復活させたが、外遊びをする児童が少ないなど、児童の体力の低下が課題である。	児童の心の健康にも配慮しつつ、自分の体に目を向け、健康に気を付けながら生活できるように指導を継続していきたい。また、外遊びをして身体をよく動かし、児童の体力を高める取組を進めていきたい。
学級経営や異学年交流を通して、互いの良さを認め合う集団づくりを目指す。	2・3	自他を認め大切にするために、成長できる場の設定や異学年との交流を深める取組を行う。	学級経営においては、児童の実態に応じてペアやグループ等の活動を行い、集団作りを進めた。異学年交流であるたて割り活動は、遊びの回数を増やしたり、ペア学年を学期によって替えたりして内容の充実を図った。ペア学年間で交流することによって、お互いの良さを認め合える場面が増え、さらに交流の輪が広がった。	集団で活動することのよさを児童が体験できる場面を工夫し、楽しんで行えるように支援する取組を継続したい。
目標をもって生活し、自己実現に向けた行動力の育成を目指す。	1	自己実現に向けた児童の育成を図るために、個々の目標設定、振り返りを行うキャリアパスポートを行い、自分自身の成長を実感できる取組を目指す。	自己実現を目指すために、キャリアパスポートを用いて自己目標を学期ごとに設定した。具体的な場面で取り組んだり、学期末に振り返りをしたりできたので、自分自身の成長を把握することに繋がった。キャリアパスポートの取組について学年だよりで繰り返し発信したことも、大変効果的であった。	学期初めに自己目標を設定し、学期末に振り返りを行うことに児童が慣れてきているので、継続して取り組むことで効果が上がると考える。
安全に対する意識を高め、安全で落ち着いた学校生活を送れるように努める。	2・3	毎月の「安全の日」は、各学級で共通して指導できるようにする。自分の命は自分で守るという意識で、災害時の身の処し方が分かるように避難訓練等を実施していく。	地域の見守り隊の方が毎日登下校を見守ってくださっていることもあり、児童の安全への意識は高い。「安全の日」の指導内容を、各クラス共通で指導できたので、学校全体で安全についての意識を高めることができた。避難訓練は、いろいろな場面を想定して効果的に実施できた。また、登校班編成は、登校班担当役員と連携することで、全体を掌握しやすくなった。	交通安全の取組や避難訓練は、いざというときに自分の生命や身体を守れるように継続して行っていきたい。
地域や保護者と連携を深めながら、開かれた学校づくりに取り組む。	3	学校だよりやホームページの活用に積極的に努める。また、学校運営協議会やPTAの理解・協力を得ながら、地域・家庭と協働した学校運営を進められるよう努める。	開かれた学校を目指して、学校だより、学年だよりやホームページ、連絡メールを活用し、学校や児童の様子を発信することができた。学校運営協議会を通じ、児童の交通安全・防犯への見守りを強化することや校地内の環境整備を進めることができた。また、PTAと連携し、安全な登下校への意識を高めることができた。	引き続き、学校だよりやホームページ、学校運営協議会等を通じた情報発信に努める。また、保護者や地域とともに児童が主役の学校づくりのための活動の見直しや取組の工夫・改善を行う。
<b>今年度の学校関係者評価委員会からの意見</b>				
全体的に肯定的な回答と意見をいただいた。児童に付けたい力としては「考える力・思いやる心・体力」があがった。今後取り組みたいことでは、「体力向上の取組、個に応じた支援、地域連携や地域の力の活用」等であった。				
<b>今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針</b>				
学校教育目標に向けて、各グループ・担当で取組を進めている。どの取組もまだ途中の段階なので、学校評価での反省を生かして、見直すところは見直し、次年度も継続して取り組んでいきたいと考えている。				